



「安・心・生・活」がんばります

第19号

みっちゃん しんぶん

御殿場市議会報告・新春の公約

発行日／平成16年1月9日
発行所／勝間田みちお後援会
後援会討議資料
〒412-0048
御殿場市板妻172
TEL 0550-89-5561
FAX 0550-89-5561
http://k-michio.jp/

勝間田みちお 社会福祉は重点目標

安・心・生・活を求めて

2004年の幕が開きました。皆さんお健やかに新春をお迎えのことと存じます。

新春早々暗い話から始まるのは気が引けますが、今年から税制が大変厳しくなる様子で、配偶者特別控除の縮小、高齢世帯でも老年者控除、公的年金控除の縮小、が予定されているほか、今後は消費税率も改正されていくもよう、増税傾向がはつきりしています。

またこの地元では富士山噴火に関する報道が多くなり、東海地震との関連性も多く取沙汰されるなど、心配事が増える一方です。

そんな将来不安の多いなか、私はこの4年間の市議会議員在職中は介護を必要とするお年寄りや障害者の皆さんが「安心した生活」を送ることができるよう、社会福祉の問題を中心として取り組んで参りました。このことは18号「みっちゃんしんぶん」の対談でお届けした通りです。しかしまだまだ課題は山積しているのが現状です。

公約の背景

そうした4年間から私が学んだことは、社会福祉は現場の状況をよく研究し、制度を適切に運用していかねければならない、というものでした。「現状を踏まえて具体的な活動を行う」このことが私の新しい目標となりました。次に掲げる公約事項にはこのような背景があります。

わたくしは、社会福祉の諸問題の研究に励み、市民の皆様とともに社会福祉制度の発展的拡充に努めます。

(1) 介護保険制度における「訪問介護」は、低所得者の利用者負担割合が現行どおり6%にとどめられるよう、「訪問看護」は、軽減措置の導入を求め、最大限の活動をします。

自立への支援はどのような立場の市民の皆さんに対しても必要不可欠で、国や市は財政支出を増額すべきだと考えています。

(2) 御殿場市における民間介護事業に対する共同研究をなし、制度のより良い運用に向けて行政に提案します。

介護保険制度の具体的な運用の現場での問題点を洗い出し、これらの事例研究を通じて、事業者、ご利用者など

のメリットにつながるようにします。

(3) 障害者に担当ケアマネージャーが配されるよう、ケアマネージメント従事者の増加に関する活動をします。

障害者の皆さんに対して担当ケアマネージャーを配することが予定されていますが、予算や研修定員の枠があるためケアマネージャーの養成が遅れています。このままでは制度の立ち上げと同時に相当数の専門家を確保することができません。私は御殿場市においては独自に早期の専門家養成に着手すべきだと考えています。

(4) 「みっちゃんしんぶん」の拡充に努め、有益な情報をお届けします。

「みっちゃんしんぶん」はすでに18号から「安・心・生活」がんばります。と見出しも新たに編集ボランティアを得て再出発しました。これから取材や編集についても一緒にやってくださる方、とくに社会福祉とともに学んでくださるかたはご連絡ください。

感謝とご支援のお願い

年末、一枚のハガキが私のもとに届けられました。皆さんにお力添えをいただき、また自分では反省点の多いこの4年間ではありましたが、もともと頑張らねばならないという自戒をこめて、このハガキを皆さんにご披露させていただきます。伺うところによりますと、永塚に住まいの主婦の方からいただきました。

こうしたご支援を心から感謝いたします。今後どうか厳しくご指導くださいますようお願いいたします。

初め「みっちゃん しんぶん」を見た時、内容がよくわかりました。目を通したら、今更市政に興味がある私ですが、勝間田議員が「社会福祉研究機構」のメンバーになり、最先端の福祉動向を勉強されているなど、市政が身近に感じることができるようになりました。お18号の公約とはいいながら、行政と市民の仲介役になろうと4年間も休むことなく「みっちゃん しんぶん」を発行しているのは大変なことだと思います。今後とも市政をわかりやすく伝えられる「みっちゃん しんぶん」を楽しみにしています。

- 主婦

こちらは「みっちゃん応援団」

「みっちゃん応援団」ではみっちゃんに辛口バトルをしかけます。応援しない応援団をどうぞよろしく。初回は、イヤダイヤダと何回も断られた「家族紹介」です。

父母 妻の両親です。もう二人とも80歳近いです。二人で畑にでかけて野菜作っていますね。母は家事もやるから大変。いつもすみません。何しろ我が家は共働き所帯なものだから。

妻 8歳年下(はあと) 気が弱いのか強いのかわからないようなヒト。泣いたり怒ったりしますが、たいていはご機嫌で助かります。まあ人情に生きてるヒトですからね。



二人の息子 長男は、大学院つてよほど居心地がいいのか、まだ博士課程で海洋科学の研究中。まあ陸にあがったイルカのようなものでしょう。次男は銀行員です。苦労しているようですが、苦勞というわけで、お嫁さん一人もいないです。

「応援団取材」 母によるみちお像
何十年も一緒に暮らしているけれども、ケンカしたことも一度もない。おつきな声も聞いたことない。誰のことにも怒らない。穏やかで優しいです。

